



Data 2023-126

監督: 烏爾善 (ウー・アールシャン)
出演: 費翔 (クリス・フィリップス)
/ 娜然 (ナア・ラアン) / 李
雪健 (リー・シュエチエン)
/ 黄渤 (ホアン・ポー) / 于
適 (ユウ・シー) / 陳牧馳 (チ
ン・ムーチー)

👁️👁️ みどころ

あなたは、秦の嬴政 (えいせい) (後の始皇帝) が、周辺の六国 (韓、魏、趙、楚、齊、燕) を滅ぼし、中華統一を成し遂げた、春秋戦国時代末期の歴史を知ってる? また、それ以前の、夏・殷 (商)・周の時代の中国史と“神怪小説”『封神演義』を知ってる?

「2023 大阪・中国映画週間」の開幕式で上映された本作は、『封神演義』を題材としたシリーズ第 1 作だが、そのスケールの大きさと音響効果、そしてファンタジー色あふれる物語にビックリ! こりゃ面白い! 『封神演義』を勉強しながら評論を書けば、なお面白い!

『十戒』(56 年) で観た、古代エジプトの首都の姿や海が割れる大スペクタクルシーンにも驚いたが、“中国三千年の歴史”とはよく言ったもの、あの巨大な城も首都も、そして自らを生贄に捧げるための巨大な祭壇の姿にもビックリ! さらに、第 2 部を予告する「イエス・キリストの復活」と見紛うばかりの、字幕終了後の 1 シーンにもビックリ!

■□■ 2023 大阪・中国映画週間を開催! 開幕式で本作を ■□■

日中を映画で結ぶ映画祭は、これまで北京、上海、東京等で開催され、関係者の努力によって継続してきたが、中華人民共和国駐大阪総領事館 (の薛劍総領事) の努力によって、昨年 11 月 11 日にはじめて「2022 年 大阪・中国映画週間」がウェスティンホテルで開催された。私は、その開幕式に登壇し、滝田洋二郎監督 VS 薛劍総領事 VS 弁護士兼映画評論家・坂和章平の 3 人で「中国映画の魅力について」対談する荣誉に恵まれた。そして、開幕式翌日の 11 月 12 日 (土) には『トゥ・クール・トゥ・キル』(22 年) (『シネマ 52』260 頁) と『宇宙から来たモーツァルト』(22 年) (『シネマ 52』265 頁) の 2 本を鑑賞した。

その企画が、今年は規模をより拡大する形で実現し、10月26日(木)午後3時半から、TOHO シネマズ梅田8階で「2023年 大阪・中国映画週間」が開催された。開幕式での上映は本作だけだが、全体の規模は第1回の8本から倍増し、計16本になっている。さらにすごいのは、これらの作品の監督や俳優が大挙して来阪し、開幕式やレセプションで挨拶したことだ。開幕式で上映される本作の烏爾善(ウー・アールシャン) 監督と主演俳優の費翔(クリス・フィリップス)が登壇すると、劇場内の中国人の観客からの拍手はとりわけ大きくなることに。一連の挨拶や記念撮影が終了した後、いよいよ本作の上映開始!

■□■始皇帝以前の中国史は?殷(商)という国を知ってる?■□■

私が2023年8月11日に観た『キングダム 運命の炎』(23年)『シネマ53』217頁)は原泰久の人気漫画を実写化したシリーズの第3作目だが、そのシリーズの主人公になるのは、後に秦の始皇帝になる、若き日の嬴政と、彼の親友である信だ。

他方、陳凱歌(チェン・カイコー) 監督の『始皇帝暗殺』(98年)『シネマ5』127頁)と張芸謀(チャン・イーモウ) 監督の『HERO』(02年)『シネマ5』134頁)が描くのは、燕の刺客、荊軻による始皇帝暗殺(未遂)事件だ。始皇帝(若き日の嬴政)は、なぜ、それまで秦、韓、魏、趙、楚、斉、燕の七国が対立してきた春秋戦国時代に終止符を打ち、中国(中華)を統一することができたの?それは2023年8月に7回にわたってTV放映された中国ドラマ『キングダム 戦国の七雄』を観れば、よくわかる。

このように、秦の始皇帝誕生の物語は日本でも有名だが、春秋戦国時代(紀元前770~紀元前221年)より以前の、「古代中国の時代」=「古代王朝、殷と周の時代」をあなたは知ってる?中国の古代王朝には「三代」と総称される、夏の時代とそれに続く殷と周の時代があり、夏王朝は禹王が開いたとされている。そして、夏(紀元前2070年頃~紀元前1600年頃)を打倒して、湯王が開いたとされるのが殷(自称は商)(紀元前17世紀頃~紀元前1046年)だ。20世紀初頭までは、殷は伝説上の王朝とされていたが、その後の研究によって、今では殷はその実在が確認できる最古の王朝だとされている。

しかして、本作冒頭のナレーションで語られるのは、その商の王のことだ。これまで、殷(商)の時代を舞台にした映画は少なかつただけに、私は本作に興味津々!

■□■『封神演義』とは?VS『三国志演義』、『隋唐演義』など■□■

あなたは『封神演義』を知ってる?私はそれを『ナタ転生』(21年)『シネマ48』220頁)ではじめて知った。中国では『西遊記』『三国志演義』『水滸伝』『金瓶梅』という“四大奇書”が有名だが、それに次ぐ、この『封神演義』も有名で、そこに登場するキャラクターの1人であるナタは、中国人なら誰でも知っているらしい。なるほど、なるほど。

そんな、日本人にはなじみの薄い『封神演義』を題材とし、そこに登場してくるキャラクターの1人であるナタを主人公としたアニメが『ナタ転生』だった。アニメがあまり好きでない私も、同作のビジュアル(のド派手さ)にはビックリ!そしてまた、なるほど、これが中国流の最新3DCGアニメーション!とその技術の高さにビックリしたものだ。

同作の評論でも『封神演義』のことを解説したが、本作は『封神演義』に基づく物語を3部作で描くシリーズの第1作だから、改めて『封神演義』のことをウィキペディアに基づいて解説すると、次のとおりだ。すなわち、

『封神演義』(ほうしんえんぎ)は、中国明代に成立した神怪小説。『商周演義』、『封神伝』、『封神榜』、『封神榜演義』ともいう。史実の殷周易姓革命を舞台に、仙人や道士、妖怪が人界と仙界を二分して大戦争を繰り広げるスケールの大きい作品である。文学作品としての評価は高くないが、中国大衆の宗教文化・民間信仰に大きな影響を与えたとされる。著者(編者)は一般に許仲琳とされることが多いが、定説はない。同様に歴史を題材にした『三国志演義』『隋唐演義』に比べても、残されている史実が少ないこともありフィクション部分が圧倒的に多く、幻想性も強い。

また、その「あらすじ」は次のとおりだ。すなわち、

はるか昔、世界は仙界と人界に分かれ、仙界はさらに、人間出身の仙人・道士達からなる崑崙山の仙道「闡教(せんきょう)」と、それ以外の動物・植物・森羅万象に由来する「截教(せつきょう)」に二分されていた。

人界は時に殷(商)の紂王の治世。紂王は名君とされていたが、慢心から女媧廟の祭祀において「女媧は人間界のどの人間より美しい、この女媧が私のものであったらいいのに」という意味の詩を詠んだ。この「神」と「人」を混同した無礼な行為に女媧は怒り、千年生きた狐狸の精に紂王を陥れるよう命じた。狐狸精は、朝歌の後宮に入ることになっていた美女、冀州侯の娘妲己の魂魄を滅ぼして身体を手に入れ、紂王を籠絡しはじめた。これ以降紂王は、妲己に操られるまま次第に暴政を行うようになっていった。

一方仙界では、闡教の教主・元始天尊門下の崑崙十二大仙が、千五百年に一度の逃れられぬ劫として、人を殺さねばならないことになっていた。また昊天上帝(天帝)が彼ら十二人を臣下に命じたことから、殷周革命に関わる闡教徒、截教徒、人道の中から「仙ならざる仙」、「人ならざる人」達を三百六十五位の「神」として「封(ほう)」じる「封神」の儀式を行うことになった。

天命により、この封神の執行者として選ばれたのが、崑崙の道士の一人であった姜子牙、後に周国の丞相となる太公望である。

かくして殷代末期の殷周革命の動乱を舞台に、四不相(四不像)に乗った姜子牙(太公望)がまきおこす殷周両国の間の戦乱、ひいては闡教と截教の対立が描かれながら、数多くの仙人、道士の靈魂が封神榜の掲げられた「封神台」へ飛んでいくこととなる。

■□■暴虐の天子・紂王とは?あの人気スターが紂王役を?■□■

日中友好協会の機関紙『日本と中国』の11月1日号には、「暴虐の天子・紂王」をテーマとして、次のとおり書かれていた。すなわち、

日中友好協会の機関紙『日本と中国』への「熱血弁護士 坂和章平 中国映画を語る」の連載は2023年11月1日号で80回を迎えた。同紙には、他にもさまざまな「連載もの」があるが、本作の鑑賞後に私の目に留まったのが、文・二ノ宮聡、絵・洪昭侯による「封神演義絵伝」で、11月1日号はその10回目の連載だった。

暴虐の天子・紂王とは、このような人物だが、「2023 大阪・中国映画週間」の開幕式で監督と共に登壇して大拍手を浴び、レセプションでも参加者の注目を集めていた、あのイケメンの人気スター、費翔が、ひょっとして本作でその紂王役を？

■□■先王を殺した殷寿が紂王に？それはなぜ？■□■

本作冒頭、『キングダム』シリーズや『項羽と劉邦 その愛と興亡』（94年）（『シネマ5』140頁）で観たような、大規模な“城攻め”の攻防戦が描かれる。その攻撃側の将は商の將軍・殷寿（インショウ）（費翔／クリス・フィリップス）、守備側の将は“裏切り者”と言われている、後に周の文王となる姫昌（西伯侯）だが、戦いは商が勝利。しかし、本作の興味はその勝敗以上に、次の2つだ。その第1は、長い間、商の人質とされていた、姫昌（西伯侯）の次男姫発（ジーファー）の活躍。第2は、美女だが、とても人間とは思えない女・妲己の登場と、妲己が重傷を負った殷寿に取り付いたうえ、「一緒に天下を取りましょう」と言い寄るストーリーだ。

秦の始皇帝以降の、歴史に残っているさまざまな戦いにはファンタジー色はあり得ないが、『封神演義』は前述の通り、仙界や神が出てくる物語だから、それを映画化した本作もファンタジー色が強くなっている。そんな本作のファンタジー色への好き嫌いは人それぞれだが、私が最も注目したのは冒頭、商の英雄的な將軍だとばかり思っていた費翔演ずる殷寿が、その後、商の先王を殺害したうえ、妻として迎えた妲己の協力を得て自ら王となったうえ、徹底した悪政を敷いていくことだ。つまり、費翔演ずる殷寿こそ、暴虐の天子として有名な紂王のことらしいから、アレレ、アレレ。こりゃビックリ！

■□■登場人物は『封神演義』に沿って！仙界からも！■□■

ウィキペディアで『封神演義の登場人物一覧表』を調べると、『封神演義』の主人公は元始天尊の弟子である姜子牙。彼は“太公望”と呼ばれる人物だが、師の命令で下山し、周を助けて商を討つ男だ。多方、「四大諸侯」の1人で「西伯侯」の地位にある男が、姫昌。彼は占いの名人で、後に周の文王となり、姜子牙を迎え入れるそう。そしてまた、彼の長男が姫伯邑考、次男が姫発だ。この父親と長男、次男が本作の準主役として、殷寿に対抗するキャラクターになるので、それに注目！

他方、楚妲己は、『封神演義』では「千年狐狸精」として登場するが、その“正体”は、冀州侯蘇護の娘の姿に化けたもの。楚妲己は「女媧」の命を受けて、商王朝の命数を縮めるために紂王に近づいたらしい。そして、彼女の性格は残忍非道で狡猾だったらしい。さあ、そんな美女・蘇妲己はファンタジー色豊かな本作でいかなるキャラクターを与えられ、いかなる活躍を？なお、『封神演義』には、元始天尊の12人の弟子をはじめ、多くの仙界

の仙人たちが登場するが、本作では道士の姜子牙（太公望）と彼に仕える李哪吒（リ・ナタ）らが登場するので、彼らの役割と仙人パワーにも注目！

■商の時代の都の巨大さにビックリ！音響にもビックリ！■

私が中学生の時に大スクリーンで観て大きな感動を覚えた映画が『十戒』（56年）だった。同作では、モーゼ率いるユダヤの民がエジプト王の追跡から逃れるについて、絶体絶命の状況下、海が割れる大スペクタクルシーンが最大のハイライトだった。しかし、私がそれと共に注目したのは、同作導入部に登場した、若き日のモーゼがエジプト王の命令に従って巨大な首都を建設する姿だ。つまり、ローマ帝国がエジプトを征服する以前のエジプト王国の時代に、あれほど巨大な都市が建設されていたこと、そして、それを建設する素晴らしい建設技術があったことに、私は驚かされたわけだ。

本作を観た私は、それと同じ驚きを！それは、本作冒頭に見る城の攻防戦だ。そこでは姫昌が守る城の巨大さにビックリするとともに、それを攻める商側の巨大な投石機にもビックリ！あんな投石機は中世ヨーロッパの“城攻め”に使われるものだとばかり思っていたが、紀元前17世紀頃～紀元前1046年の商の時代に、あんなミサイルのような武器があったことにビックリ。私がさらに驚いたのは、商の首都としてスクリーン上に映し出される“朝歌”の巨大さだ。当時の首都の人口が何人ぐらいだったのかは知らないが、とにかくその巨大さにビックリ。

さらに私が驚いたのは、占いによって商の滅亡が近づいていることを告げられ、それを回避するためには新王に就いた殷寿自身が生贄になる必要があると説明され、それを了解した殷寿が、自分を生贄に供するための巨大な祭壇を建設すること。いかに儀式とはいえ、人間1人を生贄にする祭壇を、なぜあれほど巨大なものにする必要があるのかはわからないが、とにかく、その巨大さにビックリ！もっとも、建設中の祭壇に“ある危機”が迫ると、姜子牙を護衛する李哪吒が、突然、人間離れた仙人パワーを発揮して祭壇の崩壊を食い止めるので、そのファンタジー色豊かなスペクタクルにも注目！

なお、本作は導入部の城攻めのシークエンスからずっと流される大音量の音楽の音響効果もすごい。本作は148分の長尺だが、その音響効果はラストまでずっと続くうえ、エンドロールが流れた後も、『封神』第2部の予告編となる映像が大音響の中で登場するので、それにも注目！

2023（令和5）年10月30日記